常磐東小学校　校長だより

# 常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅢ
令和　４年　６月　２日(木)
その２　通算 236 号

## ◇　【はい】返事　二文字に込めるもの

明日の「全校体育」、開幕競技・開幕演技は「徒競走」。
地味だが、スタートを飾るにはとてもいい競技。
なぜなら、全員が【主役】だからだ。

主役とさせ得るものが本校にはある。※大規模校・中規模校では時間の関係上、難しいだろう。
【呼名『〇〇〇〇さん』】➡➡➡【『はい』の返事】。
『はい』。　子供たちは、この２文字にこれまで「備えた力」を込める。

名前を呼ばれたら、『はい』。
これは、いつもの授業の対応と同じ。

呼名の際は、同時に手も挙げる。順序は異なるが、これもいつもの授業と同じ。
肘を伸ばして指先までまっすぐに。やはり、いつもの授業と同様だ。

つまり、【呼名】➡➡➡【『はい』の返事】の一連の流れは、日々の授業で身に付けた【前向きで、健やかに成長した逞しい姿】の参観者への披露とも言える。だから、時間にすればほんの一瞬の出来事が、ほっこりとした感動を誘うのだ。

卒業証書授与式みたく担任教師に呼名させたい思いもあるが、ここは平等的な立場の岡田養護教諭に任せよう。担任は客観的・俯瞰的に姿を見て返事を聴く。学級スタートからの子供たちとのかかわりを振り返り、その成長を味わえばよい。

本校の徒競走はレースだけではない。呼名と返事を含めてはじめて成り立つ。
子どもたちが『はい』の二文字に込めるものとは、学級スタート以来の、いや入学以来の「備えた集大成の力」。保護者をはじめとする家族の方にはびしびしと伝わり、真正面から受け止めていただけることだろう。

さて、徒競走のスタートは例年どおりテント側。今年のカメラポジションは…。ゴールシーンもいいが、『はい』の返事を含めたスタートもよいのである。

◆裏面に【資料】

常磐東小学校　校長だより

# 常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅡ
令和３年７月２日(金)
その４

## ◇「全校体育」で見えたもの❷～挙手と 返事と～

子供たちの「いい姿」を、「力を養った姿」を、「心身を鍛えた姿」を保護者の方に見ていただけた【全校体育】であった。

開会式の校長の話で伝えたことは３つ。
①これまで我慢してきたが、今日だけは、力の限りに声を出してもよい。
②徒競走で名前が呼ばれたときは、力の限り元気よく「はい」の返事。
③応援に力の限り。（ただし、自席ではマスク着用のこと）

競技が始まった。
最初の種目は徒競走。呼名の「返事」がある。しかも経験のない１年生から。
第１レースの１コースはＨさん。ここで、曇り空に風穴をあけるようなＨさん気持ちを乗せた「はい」の返事。ここからは「元気の伝承」「元気の連鎖」。触発されるように、２コースのＦ君、３コースのＭさん、４コースのＳさんも続く。

第２レースも勢いは止まらない。

ここで注目してほしいのは、手の挙げ方である。特に掌。
全員が内側（頭側）を向いている。

授業場面と同じである。

掌を前に向けると、実は指先に力が入らない。肘が曲がって、だらんとした手の挙げ方になる。これを改善する方法は掌を内に向けること。指先の伸びる正式な「万歳」と同じなのだ。

つまり、日々の授業で教えてもらい、実践し続けていることが、突き抜けるような「はい」の返事の連鎖と美しく勢いのある「挙手」の連鎖として表出できた。

「いい挙手」と「いい返事」は、つながっている。
そして、
「いい挙手」と「いい返事」は、次から次へとつながってゆくのだ。

### 明るい返事

遠藤敏夫

いつでも　誰から呼ばれても
「はい」と答えて　ポンと立って
明るく元気な　はっきりした返事こそ
この世を明るくする　お守りだ

返事とともに　ポンと立って
すぐに仕事にとりかかる者こそ
一隅(いちぐう)を照らす国宝だ

呼ばれたら「はい」
頼まれたら「はい」
叱(しか)られたら「はい」

これを「はいの三原則」という